

プロフェッショナリズム 4

【単位数:0.5単位, 授業10コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

宮田靖志 教授(特任)(地域総合診療医学寄附講座)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-b, I-2-b, I-3-b, I-4-b, I-5-b, I-6-b, I-7-b, I-8-b, I-11-b, I-12-b, I-13-b, I-14-b, I-15-b)

- ① コアコンピテンスの“プロフェッショナリズム(医師としての価値観・態度・姿勢, 生涯学習・自己啓発・自己管理, チーム医療・医療安全)”の理解を深める。
- ② プロフェッショナリズムとは, 医療者, 医学生として最低限身に付けておくべき最低限の能力と, 医療者, 医学生として常に高みを目指す姿勢を保つ向上心的目標の2つがある。その両方の基本的概念を理解し, それらを日々の学生生活で実践することは具体的にどのようなことかを自身で考え, 実践できるようになる。
- ③ 医師として生涯にわたり社会貢献していくために, どのようにキャリア形成していくか, 考えることができるようになる。
- ④ 臨床倫理の具体的事例について深く考え, 議論できる。
- ⑤ 多職種連携で自分の職種の立場で議論・作業に参加でき, かつ, 他職種の立場を理解したうえで, 協働できるようになる。

(2) 学修目標

- ・ プロフェッショナリズム
 - ① プロフェッショナリズムの概念を理解する。
 - ② アンプロフェッショナルな行動とは何かを理解し, それを回避することができるようになる。
 - ③ 向上心的目標とは何かを理解し, 自身でその目標を立てる。
 - ④ プロフェッショナリズム・ジレンマ症例について健全な対応策を考えることができる。
 - ⑤ 社会的説明責任について理解し, 健康の社会的決定要因への対応を考えることができる。
 - ⑥ 利益相反について理解し, 正しい対応ができるようになる。
 - ⑦ 難しいコミュニケーションの概念を理解し, 一定程度のスキルを身につける。
 - ⑧ 共感, ヒューマニズムとは何かを理解し, それらの態度を保つことができるようになる。
 - ⑨ 健康の社会的決定要因について, その実際を理解することができる。
- ・ キャリア形成
 - ① キャリア形成とはなにかを理解する。
 - ② 女性医師のキャリア形成について, 女子学生, 男子学生の立場から考えることができる。
- ・ 臨床倫理
 - ① 臨床現場で実際に生じる倫理的問題について自身の考えを述べ, 他者と意見交換できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	70%	・記述式及び多肢選択問題
レポート	○	30%	・非常勤講師の講義内容の感想を、講義翌日の9:00までにAIDLE-Kに提出すること。記載内容をあらかじめ提示する評価基準によって各15点満点で採点する ・課題提出期限に間に合わなかった場合は採点対象としないので注意すること。
態度	○	—	授業妨害となるような態度不良が見られる場合は、総合判定から最大10点減点する。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

- 評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。
- 非常勤講師の講義内容の感想の評価は下記の通りとする。
 - ・キーワードを3つ挙げる
 - ・挙げたキーワードの少なくとも1つに関して、講義内容に関する自分自身の考えを記載する。
講義資料の記載、一般的・教科書的記載は不可
 - ・自身の十分な考えが記載されている場合、1講師につき15点満点で採点する。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

レポートに対しては、全体メールでフィードバックする。

試験問題の解答について、学生の多くが理解できていないと思われる点について、メールでフィードバックする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
白衣のポケットの中 医師のプロフェッショナリズムを考える 8	宮崎 仁, 尾藤誠司, 大生定義 編	医学書院	プロフェッショナリズムの概念, 具体的事例について分かりやすく記載されている。
日常診療の中で学ぶプロフェッショナリズム	Levinson, L 著 宮田靖志監訳	カイ書林	日常臨床でよく遭遇する具体的プロフェッショナリズム事項について, その対応が書かれている実践的な内容である。
医療プロフェッショナリズム教育	クルーズ, R他 編	日本評論社	やや難解であるが, 包括的に解説されている。
ABC of 医療プロフェッショナリズム	Coope, N 著 宮田靖志監訳	羊土社	プロフェッショナリズムの概念から現代の医療現場での課題まで, 広くかつ簡潔に解説されている。
臨床現場のレジリエンス 医療従事者のウェルビーイングのために	Frain, A 著 宮田靖志	遠見書房	バーアウト回避の基本的な考え方が整理されている。
医療の倫理ジレンマ	バーナード・ロウ	西村書店	臨床における様々な具体的倫理事項を取り上げ, その解消のための考え方を詳細に説明している。
実践 SDH診療 できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み	日本プライマリ・ケア 連合学会	中外医学社	健康の社会的決定要因に関する実践について分かりやすく解説されている。
医療者のためのLGBTQ講座	吉田絵理子編	南山堂	セクシュアリティと医療に関する知識が分かりやすく解説されている。

6 準備学習（予習・復習）

2日前までに講義資料をAIDLE-Kにアップするので, それに目を通しておくこと。(このコース全体の準備として, 0.5時間)

7 授業計画

(1) 講義の方法

講義資料のすべてを詳細に解説することはない。プロフェッショナリズムに関する知識の整理のため, 簡単な講義後, 自己省察, グループ討論, 全体討論, 課題の発表などを行う。主に事例検討を中心に授業を進める。

(2) 講義の内容

医療プロフェッショナリズムの各テーマについて, 自分で経験した, あるいは自分の周囲で生じたプロフェッショナル, アンプロフェッショナルな行動について発表, 討論しながら, プロフェッショナリズムの理解を深めていく。